

子どものおねだりとの付き合い方



前回の記事では、お年玉の扱い方について考えました。今回は日々の生活の中で、子どもからおねだりされたときに対処すべきかについて考えます。

このような場面は子どもを持つ親なら誰しも遭遇したことがあるでしょう。親御さん方はどのように対応しますか？きっと初めは、ママやパパも「ええ～、家にたくさんおもちゃあるでしょ。だめだよ」とやさしく言って断るでしょう。しかし、なかなかわかってくれないのが子どもです。「やだやだ」「ほしいほしい」「買って買って！」といったような反応が返ってくるのではないのでしょうか。それによって初めはやさしく話していたママも怒ってしまったり、「もう知らない！」と行って子どもを置いて先に行ってしまうということもあるでしょう。このようなことがあると、親御さんや大人は、子どもが相手だと話をしてもわからないからと思ってしまうことも多々あるかと思います。

一方で、子どもにも子どもの考えが理解の仕方があります。ママとパパといっしょにお出かけしているときに目に入るおもちゃは、きっとママが自分の好きな洋服やアクセサリを見つけたときの心境に似ているかと思います。もし、目の前の洋服を見て素敵だな！と思ったとき、隣にいる夫から「これと同じような服、持ってなかったっけ？」「いつも同じようなものばかり買っているよね。」と言われたら、どう思うでしょうか。泣くことはありませんが、きっと嫌な気持ちになるでしょう。ママにとって、同じ洋服でもそれぞれに違いがあるように、子どもにとっても、同じおもちゃでもそれぞれに思い入れがあるはずです。

しかしながら、子どもが欲しいというものを親が全部買ってあげるわけにもいきません。大人は欲しいと思っても、金額や用途など様々な視点から考えて買

うか買わないかの判断を下すことができますが、小学校低学年くらいまでの子どもにはまだその判断能力がありません。ですから、大人が少しずつ教えてあげることが必要です。なぜならば、お金は食べ物や健康と同じように限りがある物であり、生きていく中で必要なものだからです。

子どもがおもちゃを見つけてほしいとおねだりしてきたら、まずは一度その気持ちを受け止めてあげましょう。「これが欲しかったんだね。」「これは何?」「〇〇ちゃんはこのが好きなの?」などとそのおもちゃについて興味を持って聞いてあげましょう。子どもがおもちゃについてお話をしてくれたあとで、「これはいくらなんだろう?」と値段についても聞いてみましょう。値段がまだ読めない場合は、大人が教えてあげてもいいです。子どもにわかりやすいように、「このおもちゃは〇〇ちゃんが大好きな牛乳が〇本と同じ値段だよ!」と子どもの好物と比べてあげることで、子どももおおよその感覚がつかめます。

この時点で、子どもが諦めることもありますし、やっぱりほしいということもあります。まだ欲しいという場合、今度は両親が相談をして決めましょう。あらかじめ、おうちのルールなどがあると決めやすいです。もし、ここでは買わないと決めた場合はその理由もきちんと子どもに話をしてあげましょう。そして大事なことは、ここで買わないと決めた場合は最後まで買わないということと貫いてください。買わないということとその理由を言ったあとに子どもが泣いたりわめいたりして、早くこの場を何とか収めたいという思いから「わかった、買う。今日だけだよ!」ということは、子どもからすると、泣いてわめいたら親は自分の言うとおりにしてくれるものなのだと学んでしまうからです。子どもが泣いてもわめいても、親はそれに怯まずにきちんと今日は買わないと決めた理由を子どもが分かるようにお話してあげましょう。

火がついたように泣いている子どもに対して親が理由を話してわかってもらうこの作業は実に面倒でもあり歯がゆいものでもある。「今日だけよ。」と言って買ってあげた方がかかる時間も労力もはるかに少ない。だけれども、それでも相手に伝えるための話し合いというのはとても大切なことなのです。

筆者も先日これと同じようなことに遭遇した。4歳の子どもの大好きな「勇宝(ヨンパオ)」という名前の機関車トーマスのアニメに出てくる列車のおもちゃを見つけ、「勇宝だ!これ買いたい!」と言ってきたのである。以前からこのキャラクターが好きだということは筆者も知っていた。ただ、この日のお出かけの目的は兄の学習用品を買うことが目的だったのだ。

夫婦で相談した結果、やはりこの日はおもちゃを買わないことと決めた。それを子どもに伝えると、案の定、泣き出した。

筆者は内心、早く買い物を終わらせて家に帰ってごはんを作らなくてはと思っていたが、一先ず深呼吸をして気持ちを落ち着かせ、「〇〇が好きな勇宝がいたね！前から好きだもんね！ほしかったね！」とこちらもその気持ちはわかるよということを伝えました。そうすると幾分か泣きも落ち着いてくるが、その後、「でもね、今日はお兄ちゃんが学校に行くお道具を買いに来たんだ。勇宝があったのはうれしいことだけど、今日は買えないんだ。」と言うとまた火がついたように泣き出したのである。これも予想の範疇ではある。ママ、がんばれと自分自身に声援を送りつつ、次の作戦に移った。

筆者の家では、おもちゃを買うルールとして、絵本や図鑑などの本とカードゲーム、パズル、積み木などの知育玩具を除く 2000 円以上のおもちゃは誕生日とクリスマスの時に買うこととしている。また、おもちゃの収納場所はリビングの一角の範囲内であることも決めており、そこに入らない場合は既にあるおもちゃをお友達にあげるか処分するなどして、おもちゃのスペースを決めている。この 2 つのルールについては子どもにもおねだりされる度に何度も何度も伝えている。

今回も、子どもには、「ほしいのはわかったよ。ママといっしょにメモに書いて覚えておこう！今度の誕生日の時に一緒にまたお買い物しに来ようね。」と言って繰り返し伝えた。お店の中で大粒の涙を流しながら大声で泣く子どもには嫌でも視線が集まる。この時も子どもが「うん、今日は買わないで帰る。」と言ってくれるまでは実に 30 分以上はかかったことだろう。そばで待っていた兄が「ぼくまで喉乾いちゃったよ。」と言っていたくらい長い時間がかかっていた。周囲の視線を背中に感じながらも説得にあたっていた筆者からするとともに長い時間が経っていた気さえする。買ってしまった方がうんと楽なのにと思いつつ…

しかしながら、家に帰ってお風呂に入っているとき、子どもが「ぼく、きょうお店で勇宝とバイバイ（おもちゃとお別れをして買わなかったこと）ができたのえらかったでしょう？」と誇らしげに言ってきたのを聞いたときは、少しばかりの成長が目に見えたように感じた。実は、子どもが言っていたこの言葉は子ども泣き止んで「うん、今日は買わないで帰る。」と言ったあとに、筆者がかけた言

葉であった。大人から言われたことについて子どもなりに考えて我慢したことで、ぼくはきょうがんばったんだ、えらかったんだと思ったことでしょうか。このことについては「きちんと話が聞いて考えて偉かったね!」「カッコいい!」「お兄さんだ!」などの言葉をかけて大いに褒めてあげるべき。子どもががんばったことに対して、大人がきちんと言葉を通して伝えてあげる。そうすれば、子どもも今日はまた一つ新しいことができたという成長を実感できることでしょうか。

子どもは、大人が持つ価値観や固定概念などを何も持たずに生まれてくる。世の中のルールも知らないし、物事の良い悪いも判別できない。例えば、蟻がかわいと思えるのか、怖いと思えるのかという概念も、身近にいる大人からの反応や情報を頼りに習得していくのである。だからこそ、周囲にいる親や大人たちはとても大切な存在となる。子育てにおいて、伝えること教えること見せることは大変で面倒なことではあるが、子どもの成長の過程に近道もないはずである。親も子育ての過程を試行錯誤しながら子どもとっしょに成長していけばいい。そしてそれが楽しくできたらなお良いと思うのである。